

3年学年だより

2020, 4, 17
石川県立小松明峰高等学校
第3学年発行 No. 2

今こそ主体的な学習習慣を

～家庭での学習の取り組み～



Keep smiling, keep shining!
笑顔をやさず、輝き続ける生徒の活動を毎日更新中
小松明峰高校

4月9日からの学校の臨時休業でまた1か月家庭で学習することとなりました。例年だと朝学習から始まり7限授業、家庭で授業の予習復習などの学習をしていた4月ですが、それができない今、進路実現を目指すために**自主自律の精神**で学習に励んでいきましょう。8日に登校したときの皆さんの問題点を聞いて、これから家庭での学習の仕方のアドバイスを何点か挙げます。

*自分の部屋で勉強ができない。

⇒今の間に学習に集中できる空間に切り変えておきましょう。

*提出した課題が作業になっている。

⇒課題を丁寧にやらなければ意味がありません。今まで週末課題で頭を使わずやってきた人はこの機会にやり方を見直ししましょう。

*学校から発信された掲示を見ていない。

⇒これからは情報収集時代。自分で収集できる力を身につけましょう。志望する大学の情報も自分で検索していきましょう。

*何から手をつけていいかわからない。

⇒進路カレンダー（配布済）を見て1年の見通しを立てておきましょう。まずは、各科目からの与えられた課題を丁寧に取り組んでいきましょう。

*模試を受けたままにしている。

⇒2月に受けた共通テスト模試の解き直しをしましょう。これから受ける模試はその都度できなかったところを直し、返却されたときにもう一度見直し、次の模試を受ける前に再度、解き直しをすることによって、自分の弱点を克服できたか、確認しましょう。



先生からのメッセージ(31H担任 佐口萌実先生)

「佐口は学校の先生とか合っとなるかもしれないなあ。」

誰に言われたかも覚えていませんが、私はこの言葉に暗示をかけられたように生き続け、今日みなさんの前で「先生」として存在しています。今となっては自分に教師としての適性があるのかどうか自問自答の日々ですが、小学校5・6年から「そうなるつもり」で生活してきたことで、テレビを観るときや親や友達と何気ない会話をすると、授業を受けるときでも「もし私が教師だったら…」という視点で物事を考える機会が多かった気がします。私は大学をセンター有り推薦（センター試験の得点と面接）で受験しました。その面接では「夏目漱石の『こころ』をどのように教えますか?」「どのような生徒を育てたいですか?」といった質問をされました。教師として働いたこともない、ただの高校生であった私が正しく答えられた自信はありませんが、もし教師だったら…の視点できちんと考えて答えを出すことはできたと思います。本校でも、教員志望や看護志望など専門的な学問分野を志望する生徒が例年たくさん出てきます。しかし、いざ面接対策や小論文対策となるとその分野についての基本的な知識やその分野に関わる出来事やニュースに対してのアンテナが低く、付け焼き刃の対策で受験に臨まざるを得ない人も多くいます。高大接続改革を背景に、高校生に対しても志望する学問分野の基礎知識や実習経験などを求める大学が増えてきています。すでに目標となる学問分野や職業が決まっている人はこの休業期間を利用して、情報収集に努めましょう。アンテナを高くし、「もし私が～だったら…」という視点で世の中を見渡してみてもいいのではないでしょうか。

一方、自分の興味がどこにあるのか、なりたいたいものがなんなのかわからないという人も少なくないと思います。そういう人たちは、いつかになくなるための努力をしておきましょう。目先のことで言えば、大学受験。行きたい大学や学部が決まっていなければ、来たる時に最大限の可能性が残るようなどの教科においても地道な学習を大切にしてください。これからみなさんが出ていく社会は、様々な職業、生き方があり、今はない仕事を生み出すことだってできる社会です。この先、自分がどんな進路、職業、生き方の選択をしても「大丈夫!」なように今自分にできる努力をしてください。